

民族舞踊文化



No.34 令和4年(2022)5月14日
THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE
一般財団法人 黛民族舞踊文化財団
〒107-0052 東京都港区赤坂 3-10-3 黛ビル 4F TEL 03-3583-3633
http://www.mayuzumi.or.jp FAX 03-3583-3639



黛民族舞踊団12月公演より (令和3年)

ごあいさつ

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団
理事長 三隅 治雄

三年越しの新型コロナウイルス流行の波もいまだ収まらず、皆様にはさぞご不自由な日々をお過ごしのことと拝します。当財団の舞踊団活動も、稽古・出演の自粛々々、ガマンガマンの歳月を強いられましたが、その間、アート・サロンの床の張替えなどリニューアルを行ない、昨年12月12日、披露を兼ねての舞踊団公演が開催出来ました。疫病を踊りの渦で送り出す「おどり神送り」がタイトルで、時宜にも適い、踊りも稽古不足を跳ね飛ばす意気と結束力で盛り上がったことでした。ゲストに魂のヴァイオリニスト白井崇陽氏を迎えての小品集も、爽やかで優美で気品高く、心温まる出来栄えでした。黛 琉美代表以下いまは団員も少人数ですが、首都東京の^{アトリエ}一等地にたとえ小空間であれ、自前の舞台をもつ強みは、日本一の舞踊団に仕上げねばの励みを促す標にもなります。創立者黛 節子師にはその気概がありました。来年3月には、創立者の思いを懸けたアジア民族舞踊交流会の開催も企画され、中国と韓国の民族舞踊団との交流公演を予定しております。ご期待ください。

財団の役員には、芸能諸分野の、錚々たる方々が顔を揃えています。創立者の願いは、自身の顕示より、自身の行動が一つの捨て石になって、わが民族の舞踊が世界に大飛翔を遂げて欲しいことでした。それを承けての財団運営と認識するわれわれです。長い目でご協力賜りますようお願い申し上げます。

財団創設者（初代理事長）黛 節子の二十七回忌追福法要を令和3年10月16日（祥月命日）に菩提寺・西方寺（杉並区高円寺）で相営みました。

黛 節子の追憶を深めるにあたり、今から47年前、財団設立前の昭和50年（筆者57歳）頃に執筆された「一つの道」を改めてご紹介いたします。

一つの道

人間は誰しも何か好きで好きでならないものがある筈。そしてたとえ僅かでも好きなものがあったら迷うことなくそれに全力投球してみる。あきることなく渾身の力を振り絞ってみる。 民族舞踊家 黛 節子



黛 節子

私のこれまで歩んできた道といえば、踊りに明け踊りに暮れたとしか申せません。おそらくこれからもそうでしょう。よくも飽きずに——。

日本舞踊と言われる江戸舞踊の手ほどきを受けてから創作舞踊、民族舞踊と手を染めながら今では、日本の芸能変遷の原点に戻るべく、芸能以前の神事にまで立ち入ってしまいました。何故に？

それは単に好奇心だけとはいいいきれないようです。一つの表面の裏にある真実を知りたい。一皮むいたその種を知ることによって、より確固たる踊りを踊りたい!! そう思いつつ生き歩んできただけなのです。

全くといってよい程、形骸化してしまった今日の日本の踊り。踊る者の立場としてこんな心淋しいことはありません。この半ば死に体となってしまった踊りをどうしたら現代に甦らせることが出来るのだろうか？ その焦燥感が新しい“生きた日本の踊り”を創ることに駆り立て、また伝統芸能の世界に踏みこませたのだと思います。

今私たちに受け継がれている踊りはせいぜい二百年前に形成されたものでしかありません。三百年、四百年、あるいはそれ以前の日本の芸能は果たしてどんな形をしていたのでしょうか。残念ながらそれらは能や舞楽、または一部の伝承芸能を除いて殆どが雲散霧消してしまったといってもいい程です。

こうした現状から私の先ず最初の仕事としては、日本の各地に断片的に残っている、かつての芸能を拾い集め、再生することから始まりました。そしてその結果が、芸能が芸能として確立する以前、神事として行われていた巫女の祈りの世界へまで辿り着いた現在なのです。今から考えてみると随分気の遠くなるような作業でした。でも最初から解っていたらもしかしたら手をつける気力も持てなかったかもしれません。太陽が昇り、西へ沈み、星や月の夜の訪れ、あるいは嵐の日、また花の咲く季節、きびしい寒さの訪れ……それ等の自然の輪廻の一こま、一こまが私を導いてくれたように思いますし、また心の中に次々に湧き上がって来る“生きた日本の踊り”を創る為の疑問、それにつながる問題の数々、私はその一つ一つを解きほぐす為に耐えたその積み重ねが、今の結果を生んだとしか思えません。

よく人様に一つの道に徹していらっしゃって立派ですよといわれますが、今も述べたように最初から徹しようなど、考えたわけではありません。よく“好きこそ物の云々”と言いますが、まさにその好き以外の何者でもなかったようです。人間は誰しも何か好きで好きでならないものがある筈、そしてたとえ僅かでも好きなものがあつたら迷うことなくそれに全力投球してみる。あきらめことなく渾身の力を振り絞ってみる。一つの目標を登りつめてみるとまた向こうに山が見える。それをまた目標とする。新しい発見と知識がまた新しい疑問を呼び、新しいファイトを引き起こしてくれるものです。こうした繰り返しが無気力な人間に墮する事なく、前へ前へとおしあげてくれます。勿論長い道のり、苦しいこともありました。数々の苦しみの末漸く公演を持つ私は、毎度の事ながら前日は不安と焦燥で眠られぬ夜を過ごして来ています。幕が降りてお客様の拍手を聞きながら全身から力が抜けていくような嬉しさと安心感を味わったこともあります。そしてそのあと必ず訪れる寂寥感、それに耐える事がまた大きな努力のように思われます。ヘナヘナになってしまった全心身……でもそのうちに又踊りを創る情熱が湧き上がって来る!! “踊りが好きなんだナァ”と自分ながら自分をいとしく なってしまう。そんな事を繰り返して来たのですが、何よりも無我夢中で踊りと取り組んできたことの方が大きかったように思えます。

結果を恐れないこと。結果を恐れないで精一杯やってみることは例え失敗しても何かを授けてくれるものです。最近の世相は何事も計算ずくで判断する傾向が強いようです。最初から、何だ、こんなものか、じゃあ、つまらないから止めた。と簡単に思い込む人が多いように見受けられます。それでは自分の人生を自分でつまらなくしているのではないのでしょうか。勿体ないことです。私は亡くなった母から「商いとは飽きない事」なのよということを教わりました。私は今までにこの言葉によっては何度救われた事でしょうか。商売も、芸の道も、学問の道も世の中のすべて飽きない事が一つの道に徹しさせ、やがては豊かな人間をつくりあげてゆくのだと信じています。



巫女舞



鹿兒島はんや

「おどり 神送り」

演出 黛 琉美
振付 黛 節子 黛 琉美
音楽 黛 節子制作初演音源
構成 黛 李穂(第一部)
黛 主(第二部)

出演
ゲスト バイオリン ^{しらい たかあき} 白井崇陽

黛民族舞踊団

黛 真也 黛 李穂 黛 主
小山羊子 川口恵里奈 戸塚文子
吉原久美子 野村陽子 長田珠澄

スタッフ

照明 小保内陽子 (株)エクサート松崎
舞台監督 堀井基宏
衣裳 的場花枝 福原明子
ヘアメイク 半沢幸子
撮影 田中文太郎



第一部 一、バイオリン演奏(証城寺の狸囃子、この道、待ちぼうけ、故郷)

二、松島音頭

三、城ヶ島の雨

四、からたちの花

五、曼珠沙華(ひがなばな)

六、千曲川旅情の歌

七、バイオリン演奏(愛の挨拶、ハナミズキ、きよしこの夜、Garden、チャルダッシュ)

第一部構成 黛 李穂

不安続きの厳しい現状の今、芸術を続けてゆく事は難しいことですが、踊りに携わる者として、自然の中に息づいている大地と、その中から生まれた唄や踊りを研究し発表することが、大自然とそれをつかさどる神々に対する感謝の心かもしれないと思うのです。黛 節子先生の遺された民族舞踊の素晴らしさを多くの人びとに理解していただけるよう、勉強してまいりたいと思います。

今回は、懐かしく美しい日本の抒情歌の世界をお届けできたらと企画構成してみました。
ゲスト白井崇陽さんの心の奥底に響くバイオリンの音色とともに、お楽しみいただけたら幸いです。

第二部 八、しのはら踊り入羽 九、ややこ踊り 十、想夫恋 十一、花念仏

第二部構成 黛 主

疫病や災いの原因を「祟り神」の所為と祭り上げてもてなし、気持ちよくさせておいて、体よく追い払う「神送り」という民俗がある。病氣平癒や平安を願ってひたすら祈る姿は、やがて踊りとなり、それを生業とする踊り巫女もうまれた。あるいは出雲の阿国もその一人だったかもしれない。

「踊り念仏」の熱狂。医学的根拠やエビデンスとは無縁のこの呪術的信仰を舞踊化した、先師黛 節子先生の作品【桜樹散華】のダイジェスト版でもある。コロナ疫毒神を鎮め、皆様と談笑できる日の一日も早いことを願って。

第一部

一、バイオリン演奏

・証城寺の狸囃子/中山晋平 曲 ・この道/山田耕筰 曲 ・待ちぼうけ/山田耕筰 曲 ・故郷/岡野貞一 曲



二、松島音頭

近代日本における新しい歌謡の一つで、黛 節子はこの松島音頭に日本の踊りのテクニックの表現で振付けをしました。花笠をつけてキラキラと踊ります。



三、城ヶ島の雨

四、からたちの花



撮影：田中文太郎

五、曼珠沙華（ひがんばんな）



六、千曲川旅情の歌



七、バイオリン演奏

- ・愛の挨拶 /E.エルガー ・ハナミズキ / マシコタツロウ ・きよしこの夜 /F.X. グルーバー
- ・Garden (ガーデン) / 白井崇陽 ・チャルダッシュ /V. モンティ



第二部

八、しのはら踊り入羽

奈良・奥吉野の大塔村篠原の風流踊は、初期歌舞伎踊の面影を伝える小唄踊。これを素材に創作されたのが「しのはら踊り」で、京都北野天神社の踊り庭に練り込む「しのはら一座」の入羽口上と踊り。出雲の阿国と名古屋山三の恋慕が描出される「桜樹散華」。



撮影：田中文太郎

九、ややこ踊り

新潟県柏崎市女谷の「綾子舞」を取材し、また近世初期風俗画等を参照しながら、踊りの原型を求めた創作。ややこ踊りは幼い少女の踊りのことで、出雲の阿国たちの歌舞伎踊に通称された。「ユライ」と呼ぶ赤い布の被り物、中近世の女装芸のシンボル。



十、想夫恋

雅楽の管弦曲に「相府蓮」あり。中国晋の大臣が官邸の蓮を愛でて作曲したとも。音が通じる「想夫恋」を宛字し、男性を慕う女性の恋情を歌う曲に。ここでは出雲の阿国が男装し、恋人の名古屋山三に身を変えて恋の思いを踊る。



十一、花念仏

花といえば桜。散りゆく桜花に万感の思いを寄せ、散り急ぐな、安らえ花よ、と呼びかけながら六字の名号を唱え、足踏みも激しく鉦を打ち鳴らし、ひたすら踊る。踊りの渦に疫病を巻き込み、退散させる念仏踊。黛 節子作「桜樹散華」のクライマックス。



撮影：田中文太郎

参加公演 令和3年5月 新宿芸術家協会 30+1 周年記念公演

The Dance Gathering Vol.24

現代のカオス 新宿を踊る!! ～内藤新宿から未来へ～

多ジャンルの舞踊家が一堂に会して、「現代のカオス新宿」をテーマとした作品を踊り、あわせて、自由テーマ作品も上演する新宿芸術家協会の舞踊公演。2020年に30周年の記念公演を予定していましたが、コロナの影響で延期となり1年越しの開催となりました。黛民族舞踊団は自由テーマの第1部ダンス・リベルテに出演し、「麦屋節」(富山県)、「山中節」(石川県)、「花笠踊り」(山形県)の日本各地に伝わる民俗舞踊を取材した黛節子振付作品を披露しました。

新宿芸術家協会30+1周年記念公演 The Dance Gathering Vol.24

現代のカオス

～内藤新宿から未来へ～

新宿を踊る!!

2021年 5月29日 [Sat.] PM 5:00 開演 (PM 4:00 開場) 四谷区民ホール

第1部 ダンス・リベルテ (自由テーマ作品集)

石川知香子 「ここに太陽を持て」 【朗読】

朗読: 石川知香子 テューバ: 石川勝巳

吏音 上田翔大朗 安部三理 「Musketeers」 振付: 渡邊美紀 【モダンダンス】

吏音 上田翔大朗 安部三理

黛民族舞踊団 「麦屋節・山中節・花笠踊り」 振付: 黛節子 構成: 黛琉美 【日本民族舞踊】

黛真也 黛李穂 黛圭 伊藤みつ子 小山羊子 川口恵里奈
野村陽子 武田静子 松本星来 澤田ひかる

大川紗季 「凍て空に告ぐ」 振付: 酒井銀丈 【コンテンポラリーダンス】

大川紗季

小林伴子 「ベリドットな夕暮に」 【フラメンコ】

舞踊: 小林伴子 ギター: 鈴木一義 歌: 大淵博光

黛民族舞踊団

構成 黛琉美 ・ 振付 黛節子

衣裳 的場花枝 ・ ヘアメイク 半沢幸子

出演 黛真也 黛李穂 黛圭

花柳翁麗 小山羊子 川口恵里奈

野村陽子 武田静子 松本星来

澤田ひかる



「麦屋節」



「山中節」



「花笠踊り」

第2部 現代のカオス 新宿を踊る!!

曲沼宏美 「天地開闢 ～陰陽未判～」 【風仙功舞踊】

曲沼宏美 秋葉あかり 四方美紗江

雑賀淑子 「人類現る!」 【バレエ】

ウタコ 小島直子 桑原麻実 本田陽子 竹原利恵 野村陽子 他

高定淳・鈴木恵子 「花華ハナ」 【創作朝鮮・中国舞踊】

高定淳 鈴木恵子

サトウ雅子・山元彩子 「スパイシータウン新宿」

【北インド古典舞踊 カタックダンス】 佐藤綾香 松波ひとみ 三上桂子 由井園子 サトウ雅子

【南インド古典舞踊 バラタナティヤム】 堀友紀子 宮本博 坂井あゆみ 武井亮江

竹内麻子 井出尚子 山元彩子

小林祥子 「HUG・時を超えて～漱石との出逢い～」 【現代舞踊】

・ 中本久美子 小林祥子

片桐美恵 「面影橋から」 【フラメンコ】

バレエ: 片桐美恵 小島智子 北村和実 川口正美 町井直美 真鍋留美子

ギター: 稲津清一 パーカッション: 小林伴子

大谷けい子・花柳奈光 「内藤新宿色模様 ～豊倉屋のお倉～」 【ダンス ネオ シノワーズ+日本舞踊】

西川翼乃三郎 大谷けい子 花柳奈光 鈴木彩乃

津軽三味線: 岩田桃橋 中原正人

※内容・上演順は変更する場合がございます。

黛民族舞踊団、本年9月公演に向けて

未だコロナ禍ではありますが、黛舞踊団は9月公演に向け日々稽古に励んでおります。これまでアート・サロン公演は、12月に開催しておりましたが、本年度は来年3月にアジア民族舞踊交流会を控えていることから、前倒しで9月4日（日）に開催いたします。

今回は、タイトルを「遊びをせんとや、にっぽん北から南 民俗舞踊再発見」とし、アイヌ民族舞踊から東北、中部、四国、九州、沖縄に由来する黛民族舞踊全10演目を披露いたします。これらは黛節子による取材・創作の作品で、衣裳、音源に関しても初演当時のものに基づき、私たちの再創造をご覧ください。

現在、若手も加わり総勢17名で活動しております。この様な時期に直面し、継承そして継続の大切さと難しさを痛感するばかりですが、これからもコロナ対策を講じて稽古を重ねて参ります。

まだ心置きなく開催できる状況とは言い難い中ではありますが、皆さまのご来場をお待ちしております。



コロナ禍の稽古風景(黛アート・サロン)

黛アート・サロンの改修工事の実施

昨年6月から7月にかけて、床の張り替えをメインに、壁面鏡の新設、エアコンの取り替え等の改修工事を行いました。床面を茶色から白木調に替え、壁面鏡の設置により開放感が増し舞踊活動に一層の弾みをつけることとなりました。

加戸守行前理事長 お別れ会ご報告

令和2年3月21日に逝去されました加戸守行前理事長のお別れ会が、コロナ禍による二度の延期を経て、去る3月22日、愛媛県松山市の県民文化会館で執り行われました。生前のご厚情と財団へのご貢献に感謝と哀悼の思いをご遺族にもお伝えして参りました。

加戸前理事長につきましては平成8年より理事として、同23年からは理事長として24年間ご尽力いただきました。中国雲南省との交流再開を待ち望んでおられた姿を思い出します。心からご冥福をお祈りさせていただきます。(事務局長 川崎大輔)





黛 圭

◆日本民族舞踊 舞遊の会

黛 節子先生の遺された作品を中心に、黛民族舞踊団員 黛 圭の指導の下
“日本民族の踊り”を学ぶ会。

〈まゆ〉の名は、黛の踊り手という〈蝶〉になる前の初心者のグループであるという意と、さにわに遊ぶ子どものように、無心に踊りを楽しむように、という思いを込めた。

昨年夏、川崎市麻生市民館で5日間（初日は台風で中止）公開講座を持つことになった。そこで、民俗舞踊の躍動感溢れる〈はねこ〉と、沖縄の〈芭蕉布〉を教えることにし、最終日には浴衣を沖縄風に着付けるなどして発表するという試みだった。参加して下さった6名は、普段は盆踊りを踊るぐらいの舞踊暦の50代から70代の女性たち。〈はねこ〉は、その名のとおり跳びはねる踊りで、正直なところ受講者の方と顔を合わせた日に、はねこ体験については無理かもしれないと思い、まず芭蕉布を中心に指導を始めた。

芭蕉布の歌詞を配り、振りを教える際は「波を見てますよ、次は青い空、風が吹いてきました」と声をかけ、情景を想像しながら身体を動かしてもらうようにした。が、沖縄舞踊で難しいのは手の動きだ。手首を曲げ、伸ばす、これだけのことなのに慣れない人には思うようにならぬ…。かつて黛 節子先生がご自身の腕を捻ってみせて「腕って360度回転できるのよ。うんと動かしなさい」と教えて下さった日のことが思い出された。しかし、4日間の体験の中で皆さん少しずつ普段使わぬ筋肉を動かし、一所けん命に取り組んで下さった。

沖縄舞踊の空手のような手の使い方や足の運び、本土の踊りとの違いなど、皆さんとても熱心に聞いていらした。〈はねこ〉については最終日に、助手の小山さんが衣裳を着て一振り踊って見せた。相撲の化粧まわしのような前掛けや長い袖の途中を紐で縛った珍しい着方など、皆さん興味津々で、踊り終わった途端「面白い踊り！でもこれは無理だわぁ」と、ため息と笑いと拍手に包まれた。

今年の6月5日、麻生市民館で開催されるサークル祭で〈芭蕉布〉を、受講者有志の方と共に発表する。その為の稽古を講座終了後も行ってきたが、皆さん目を輝かせて参加して下さった。踊りは日々の生活に夢や潤いを与える____予定通りとはいかなかったが公開講座を経て、舞踊の持つ力、魅力を再発見できたように思う。黛 圭



稽古風景



受講者の皆さんと黛圭(中央)助手小山(右端)

舞遊の会 「2022年 あさおサークル祭」 参加のお知らせ

日時 2022年6月5日(日) 開演 午後4:15 (開場 午後3:45)

会場 麻生市民館 大会議室

披露演目 傘踊り / 田植え踊り / 芭蕉布 / 花笠音頭 / 安来花笠 / からたちの花 / 松島音頭

令和4年度 黛民族舞踊団公演予定 (令和4年5月現在)

【自主公演】

9月4日(日)

黛民族舞踊団 9月公演 2022

「遊びをせんとや、にっぽん北から南 民俗舞踊再発見」

会場：黛アート・サロン

時間：2回公演 開演 13時/16時半 (開場 30分前)

公演内容：黛民族舞踊 10作品 サロロンリムセ / 会津磐梯山 / 伊予万歳 他 (休憩なし 70分公演)

チケット：2,000円 (定員：50名)

令和5年

3月21日(火・祝)

「アジア民族舞踊交流会 2023」

会場：国立劇場 小劇場

詳細：調整中

【参加公演】

6月24日(金)

新宿芸術家協会主催公演

The Dance Gathering vol.25

「日本橋を踊る！」

披露演目：原体剣舞連 (黛民族舞踊)

会場：日本橋公会堂

時間：開演 18:45 (開場 18:15)

チケット：全席指定 前売券 4,500円

当日券 5,000円

新宿芸術家協会公演
～現代のカオス新宿より～

チケット：前売 指定席4,500円 プレミアム指定席5,500円 / 当日 5,000円

第1部 ダンス リパルテ

黛民族舞踊団「原体剣舞連」【日本橋公演】

脚本 小山幸子 演出 堀江 紀彦 音楽 鈴木 大

大川 妙子「Desert」【コンテンポラリーダンス】 演出 高井 幸子

大川 妙子

鈴木 彩乃「xin」【コンテンポラリーダンス】

鈴木 彩乃

南原 初美「SENSE」【コンテンポラリーダンス】 演出 中村 幸子

山田 和典 石田 和乃 演出 南原 初美 演出 中村 幸子

田中 寿子「旅立ちのとき」【現代舞踊】

田中 寿子

小林 伴子「Benamor」【コンテンポラリーダンス】 演出 伴子 演出 伴子

小林 伴子

伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

演出 伴子 (ダンサー)

日本橋を踊る The Dance Gathering Vol.25

第2部 日本橋を踊る

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

演出 伴子

舞踊団員募集のお知らせ

現在 17 名の舞踊団員で活動を行っております。

このたび、黛民族舞踊の継承と発展をはかるため新団員を募集します。日本の伝統舞踊の創造に興味と関心のあるお方は、まずは稽古見学・体験レッスンから参加してみてください。稽古を重ね、技を磨き、仲間と共に舞台へ立ってみませんか。応募お待ちしております。

詳しくは、当事務局までお問い合わせ下さい。

稽古場：黛アート・サロン(地下鉄 赤坂見附駅 徒歩 2 分)

稽古日時：毎週月曜日 18:30 から 21:00

問合せ先：黛民族舞踊文化財団事務局

TEL 03-3583-3633 / FAX 03-3583-3639

E-mail info@mayuzumi.or.jp

home page





令和3年12月 三隅理事長と共にアトリエ公演終演後

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団のあらまし

当財団は、わが国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和61年3月文部大臣から設立を許可された団体です。財団設立後は、(1) 民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡回公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2) 後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者(音楽、振付けを含む)、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創作活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3) 日本各地および東南アジア諸国の民俗芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資材を整理保存して一般にこれを提供し(将来は資料館を設置して一般の利用に供することを計画しています)また、(4) 世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これらの舞踊団との交流や、東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5) 民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的を御理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げます次第です。つきましては、当財団には下記の通り賛助会員規程を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます次第です。

黛民族舞踊文化財団賛助会員規程

一、 賛助会員とは、この法人の趣旨目的に賛同して入会くださった個人・法人(団体)の方々の名称です。

二、 会費寄付の内容は下記の通りです(但し、年間会費として扱わせていただきます。)

- | | | |
|----------|------------|-------|
| ア、 個人の場合 | 個人会員 | 五千元以上 |
| | 特別個人会員 | 十万元以上 |
| イ、 法人の場合 | 法人(団体)会員 | 十万元以上 |
| | 特別法人(団体)会員 | 百万元以上 |

三、 賛助会員の特典

ア、 特別会員(個人・法人)

- 1 年一回以上公演全の切符御一名様御招待
- 2 「財団の宴」など種々の行事に御招待

イ、 会員(個人・法人)

- 1 年一回以上公演全の切符御一名様御招待

なお、御入会くださいます方は、賛助会員会費寄付申込書に御記入の上、御返送いただきたく存じます。賛助会員会費寄付申込書は、当財団宛てに、御請求くださいませ。領収書は、銀行にお振り込み下さいました後、お送り申し上げます。

【令和3年度 賛助会員(五十順敬称略)】

花柳衛菊 星野紘 松崎邦昭 匿名一人

民族舞踊文化 No.34 令和4年(2022)5月14日発行 発行人 三隅治雄 編集 黛民族舞踊文化財団事務局
〒107-0052 東京都港区赤坂3丁目10番3号 黛ビル4階 MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAKA, MINATOKU, TOKYO
一般財団法人 黛民族舞踊文化財団 THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE
TEL 03-3583-3633 FAX 03-35833639 ホームページ <http://www.mayuzumi.or.jp>